

香川県におけるイチゴウイルス病の分布とウイルスフリー苗の育成

都崎芳久・上原等

1. 香川県のイチゴのウイルス汚染実態を、小葉接法で調査した結果、綾歌郡、三豊郡では100%、大川郡では85.7%がMottle virusに感染していた。Mottle virusとMild yellow edge virusとの重複感染株が、綾歌郡は33.3%、三豊郡では21.5%認められた。大川郡ではMottle virusとVein banding virusとの重複感染が7.1%認められた。各地区とも3種以上の重複感染したものはなかった。

2. 宝交早生を生長点組織培養と熱処理を併用してウイルスフリー苗の育成を行った。

274個の生長点組織をIAA・ココナットミルク添加農事試験場培地に置床した結果、萌芽率は70.1%、雑菌の発生率は5.8%、土壌移植個体数は160個体(52.9%)であった。培養個体のウイルスフリー率は78.5%であった。

3. 葯および生長点組織の脱分化によるウイルスフリー株の大量育成実験を大沢らの開発した方法によって行った。

葯からのカルス形成率は83%であり、生長点組織からの94%に比べてやや劣った。カルスよりの茎葉の分化は生長点組織では100%、葯のカルスからでは32%であった。茎葉の分化数は葯および生長点組織間に大差はなく、大きいカルスでは17本前後、平均6~7本の茎葉が分化した。分化した茎葉は基礎培地への移植でほとんどが発根し土壌移植できた。